

景況調査

報告書

No. 97

令和4年10月～12月
令和5年1月～3月

実績
見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

令和4年度第3四半期(令和4年10月～12月)景況調査

1. 調査時点 令和5年1月15日～1月31日

2. 調査対象

- (1) 対象地区 蒲郡市内
- (2) 対象(回答)企業 104 [97 企業、7団体] 三河織物工業(協)、中部繊維ローブ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	51 (3)	9 (2)	12 (1)	14	10 (1)	8	104 (7)

※ () は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前期比では-15.4、前期実績(-20.3)に比較すると4.9ポイントと横バイの傾向が見られ、前年同期比では、-22.1、前期実績(-21.4)に比較すると-0.7ポイントと横バイの傾向が見られた。売上DI値は、前期比で2.9、前期実績(-15.6)と比較すると18.5ポイントと上昇の傾向が見られた。収益DI値は、前期比で-21.2、前期実績(-25.8)と比較すると4.6ポイントと横バイの傾向が見られた。総合判断来期見通しは-23.0、今期の実績(全業種(当期実績)前期比-15.4)と比較すると-7.6ポイントと下降の傾向が見られた。

「製造業」のうち食料品は年末の需要期であるがインフレ傾向等の影響もあるのか売上の伸びも限定的。それ以上に原材料価格の値上がりが続く、利幅が大きく減少した。織物は消費意欲の低迷もあってか、通信販売市場は横ばいも小売店頭の荷動きが鈍く、生産にも影響が出ている。漁網・ローブは前年同月比で生産は100%。販売数量は97%。販売金額は98%。原材料高による値上で数量は減少も金額は僅かに増加。鉄工のうち日本工作機械工業会の受注総額は10月1,410億円、11月1,341億円、12月1,405億円。単月では前年同月比10%程度減少する月もあるが年間類型では15%程度増。当地区でも同様の傾向だがエネルギー・資材コスト高による収益悪化が不安材料。トヨタ国内日当たり生産は原材料不足により抑制傾向が続いた。企業ごとにバラつきはあるが生産調整の影響を受けた企業もある。加えて原材料・コスト高で利幅が縮小した。化学工業は中国のゼロコロナ政策の影響で全体的に動きが鈍く、顧客の稼働率も低下傾向であった。プラスチックは海外需要の低迷もあり、国外取引は厳しい時期であった。

「建設業」は県内の工事物件数は公共・民間とも順調に推移しており、人手不足等が課題となっている。

「卸売業」のうち、繊維卸は<産業資材>車両用基布の10～12月の動きは未だ部品不足による生産調整が続く大きく需要低迷。他の資材は全体的に動きが鈍くなっており原材料高による消費の落ち込みが影響か。<インテリア>円安による原材料高で採算面が厳しく、前売りの状況が優れず数量が1割強程度のダウン。<アパレル>円安+原材料高に加え、燃料高騰によるコスト増で利益が残らない状況。

「小売業」はインフレの影響で消費意欲に力強さがないなか、年末の需要期にあり前期比で売上は上昇も、原材料やコストアップ分を十分に転嫁できず利幅は縮小した。飲食は個人客の動きはコロナ前の水準に近づきつつあるが、第8波の影響もあってか会社などの団体利用は以前の水準には届かず。また、食材や電気ガスの値上げが利幅を圧迫している。石油等その他小売は欧米各国の利上げ、中国ゼロコロナ政策等による需要低迷もあり供給超過が続いた結果、WTI期近物は徐々に値を下げ12月は70ドル台で推移。

「サービス業」のうち旅館関係は10～12月期の宿泊者数は、2021年比126.2%。2019年比57.5%。全国旅行支援等の後押しも伸び悩んだ。昨年のは県民割は県内旅行限定で波及効果があったが今回は県外への流出があった。第8波の影響は企業・団体旅行の多い愛知では忘年会などに影響があった。ジブリパークの波及効果も入場者制限の現状では蒲郡への影響は限定的。

設備投資状況は、41事業所(78件)で設備投資が実施され「生産設備(29.5%)」等に投資された。来期は32事業所(57件)が「生産設備(26.3%)」等の設備投資を計画している。

経営上の問題点は、売上の停滞・減少、利幅の縮小、原材料(燃料)高、人手不足、人件費の増加、が項目別で上位を占めている。

当地区において 令和4年度第3四半期は最も活性化する時期であるが、横バイから下降傾向と伸び悩んだ。エネルギー・原材料価格などの値上がりや、売上増加&利幅縮小を訴える声が業種を問わず見られた。業種毎では、支援施策のあった旅館関係や堅調な建設業が好調な反面、製造業全般や為替の影響を受けやすい卸売業で厳しい状況がみられた。経営上の問題点では、売上減少に加え、利幅縮小・原材料高などが引き続き上位にあげられ、低調な個人消費と世界的な景気減速にコスト上昇を受けて厳しい状況となった。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

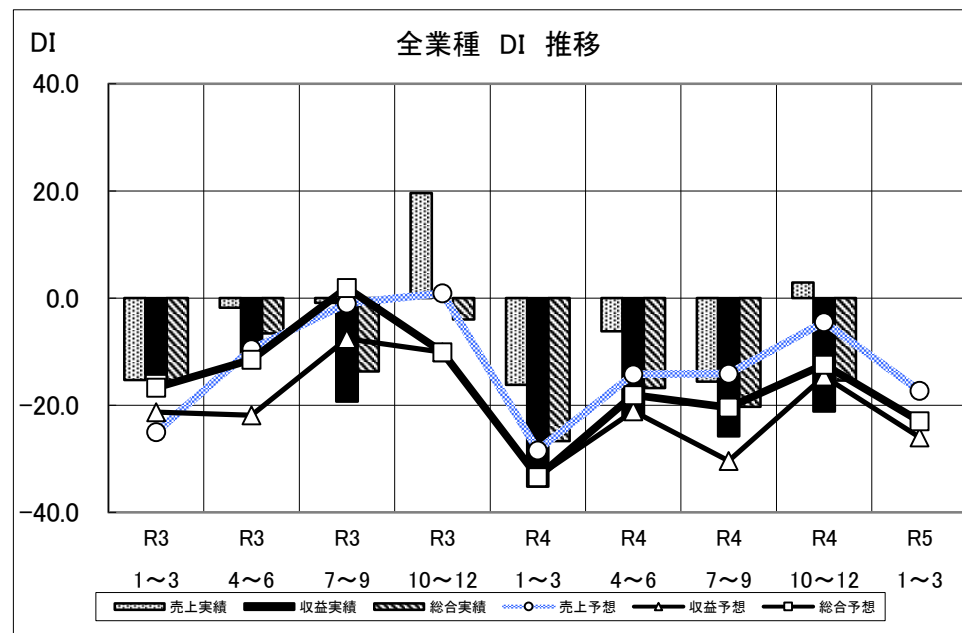
<全業種 各項目別期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年10月～12月 に比べて	前期比 令和4年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和5年1月～3月 の見通し	売上		収益		総合判断			
				前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し	
①生産額・売上額	-11.6	2.9	-17.3	R3.10～12月実績	1.9	19.6	-19.6	0.0	-16.7	-4.0	-33.4
②製品・商品在庫	-16.5	-15.5	-12.6	R4.1～3月実績	-14.3	-16.2	-23.8	-35.2	-17.1	-26.7	-18.1
③資金繰り	-14.4	-11.5	-15.4	R4.4～6月実績	1.7	-6.2	-23.9	-22.2	-15.0	-16.8	-20.4
④採算(収益)	-36.5	-21.2	-26.0	R4.7～9月実績	-5.6	-15.6	-31.5	-25.8	-21.4	-20.3	-12.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-11.5	-1.9	3.8	R4.10～12月実績	-11.6	2.9	-36.5	-21.2	-22.1	-15.4	-23.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-22.1	-15.4	-23.0								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-15.3	-1.8	-0.9	19.6	-16.2	-6.2	-15.6	2.9	-17.3
収益	-14.3	-10.5	-19.3	0.0	-35.2	-22.2	-25.8	-21.2	-26.0
総合	-15.4	-6.6	-13.7	-4.0	-26.7	-16.8	-20.3	-15.4	-23.0

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少)
 製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加)
 資金繰り :DI=(好転)-(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)
 従業員数 :DI=(増加)-(減少)
 業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き
 DIが0 ⇒ 景気横ばい
 DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上

DI 6~49%

DI 5~-5%



DI -6~-49%

DI -50%以下



6. 業種別報告

製造業

売上DI値は-15.7、前期実績(7~9月期-27.5)に比して11.8ポイントの上昇、収益DI値は-35.3、前期実績(7~9月期-37.5)に比して2.2ポイントの横バイ、総合判断DI値は-33.4、前期実績(7~9月期-32.5)に比して-0.9ポイントの横バイとなった。

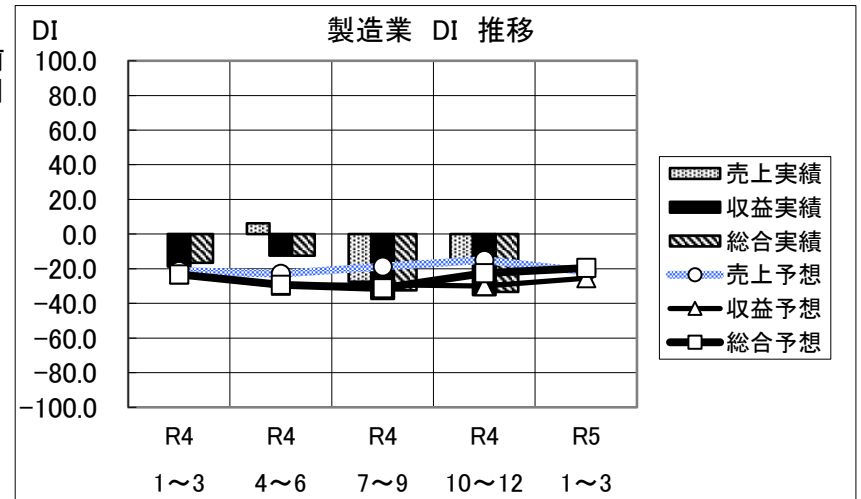
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-21.6ポイントの下降、収益DI値は-25.5ポイントの下降、総合判断DI値は-19.6ポイントの下降となっている。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年10月~12月 に比べて	前期比 令和4年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和5年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-17.6	-15.7	-21.6
②製品・商品在庫	-15.7	-17.6	-9.8
③資金繰り	-23.6	-17.7	-13.7
④採算(収益)	-52.9	-35.3	-25.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-11.8	-2.0	13.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-31.4	-33.4	-19.6



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	0.0	6.2	-27.5	-15.7	-21.6
収益	-18.8	-12.5	-37.5	-35.3	-25.5
総合	-16.6	-12.5	-32.5	-33.4	-19.6

[食料品]

売上DI値は20.0、前期実績(7~9月期0.0)に比して20.0ポイントの上昇、収益DI値は-40.0、前期実績(7~9月期-80.0)に比して40.0ポイントの上昇、総合判断DI値は-40.0、前期実績(7~9月期-80.0)に比して40.0ポイントの上昇となった。年末の需要期であるがインフレ傾向等の影響もあるのか売上の伸びも限定的。それ以上に原材料価格の値上がりが続き、利幅が大きく減少した。

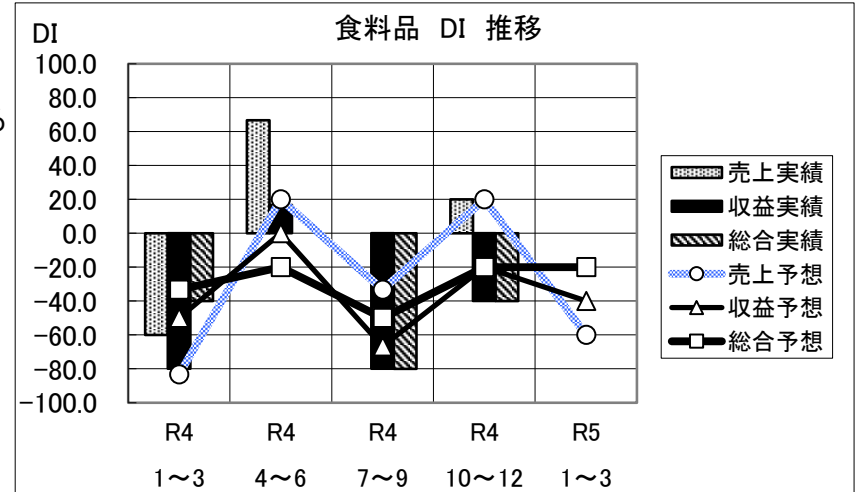
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-60.0ポイントの下降、収益DI値は-40.0ポイントの下降、総合判断DI値は-20.0ポイントの下降となっている。

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年10月~12月 に比べて	前期比 令和4年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和5年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-20.0	20.0	-60.0
②製品・商品在庫	-40.0	-40.0	-20.0
③資金繰り	-20.0	-20.0	-20.0
④採算(収益)	-80.0	-40.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	20.0	0.0	20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	-40.0	-20.0



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-60.0	66.7	0.0	20.0	-60.0
収益	-80.0	16.7	-80.0	-40.0	-40.0
総合	-40.0	0.0	-80.0	-40.0	-20.0

【織物】

売上DI値は-66.7、前期実績(7~9月期-100.0)に比して33.3ポイントの上昇、収益DI値は-100.0、前期実績(7~9月期-100.0)に比して0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は-100.0、前期実績(7~9月期-100.0)に比して0.0ポイントの横バイとなった。消費意欲の低迷に加え行動の変化もあつてか、通信販売市場は横ばいも小売店店頭荷動きが鈍く、生産にも影響が出ている。

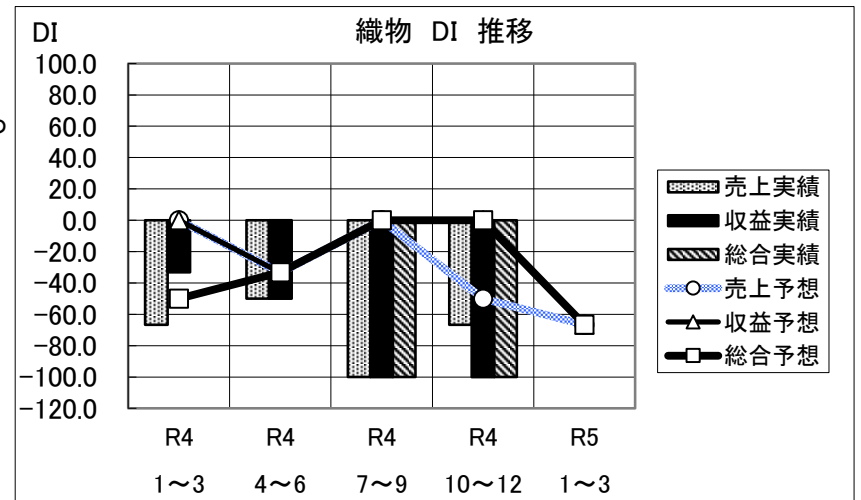
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-66.7ポイントの下降、収益DI値は-66.7ポイントの下降、総合判断DI値は-66.7ポイントの下降となっている。春物の需要期に入るが、上記の購買傾向は続くものとみられ、中期的に販売先のシフトも必要となってくる。

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年10月~12月 に比べて	前期比 令和4年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和5年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	-66.7	-66.7
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-33.3
③資金繰り	-66.7	-66.7	-33.3
④採算(収益)	-100.0	-100.0	-66.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.4	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-100.0	-100.0	-66.7



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-66.7	-50.0	-100.0	-66.7	-66.7
収益	-33.3	-50.0	-100.0	-100.0	-66.7
総合	0.0	0.0	-100.0	-100.0	-66.7

【漁網・ロープ】

売上DI値は-37.5、前期実績(7~9月期-20.0)に比して-17.5ポイントの下降、収益DI値は-37.5、前期実績(7~9月期0.0)に比して-37.5ポイントの下降、総合判断DI値は-37.5、前期実績(7~9月期0.0)に比して-37.5ポイントの下降となった。前年同月比で生産は100%。販売数量は97%。販売金額は98%。原材料高による値上で数量は減少も金額は僅かに増加。

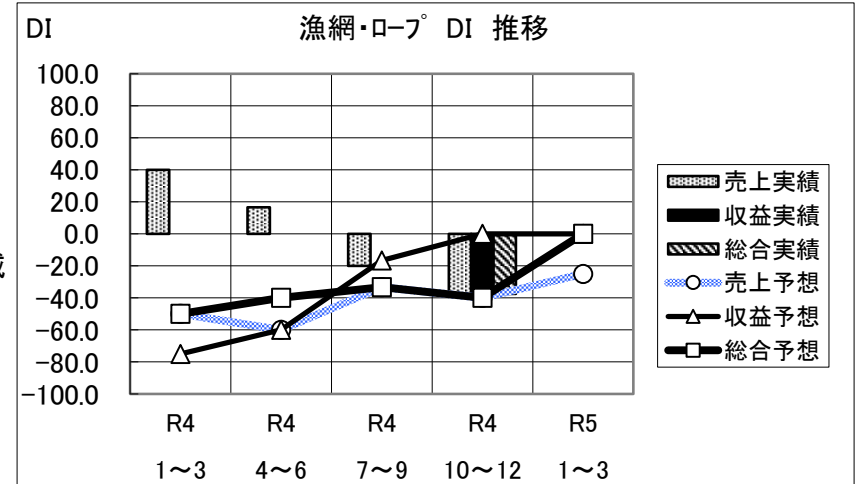
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-25.0ポイントの下降、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。原材料価格も安定してきたが、電気料金、他資材のコストアップで収益減少で再値上げ交渉も必要。経済全体の低迷で先行きは不透明。

(漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年10月~12月 に比べて	前期比 令和4年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和5年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	50.0	-37.5	-25.0
②製品・商品在庫	-12.5	0.0	-12.5
③資金繰り	-12.5	-12.5	-12.5
④採算(収益)	-37.5	-37.5	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	0.0	-12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-12.5	-37.5	0.0



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	40.0	16.6	-20.0	-37.5	-25.0
収益	0.0	0.0	0.0	-37.5	0.0
総合	0.0	0.0	0.0	-37.5	0.0

[鉄工]

売上DI値は-21.7、前期実績(7~9月期-41.1)に比して19.4ポイントの上昇、収益DI値は-30.4、前期実績(7~9月期-41.2)に比して10.8ポイントの上昇、総合判断DI値は-30.5、前期実績(7~9月期-23.5)に比して-7.0ポイントの下降となった。<工作機械関係>日本工作機械工業会の受注総額は10月1,410億円、11月1,341億円、12月1,405億円。単月では前年同月比10%程度減少する月もあるが年間類型では15%程度増。当地区でも同様の傾向だがエネルギー・資材コスト高による収益悪化が不安材料。<自動車部品関係>トヨタ国内日当たり生産は原材料不足により抑制傾向が続いた。企業ごとにバラつきはあるが生産調整の影響を受けた企業もある。加えて原材料・コスト高で利幅が縮小した。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-4.4ポイントの横バイ、収益DI値は-30.5ポイントの下降、総合判断DI値は-13.1ポイントの下降となっている。

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年10月~12月 に比べて	前期比 令和4年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和5年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-34.8	-21.7	-4.4
②製品・商品在庫	-13.1	-13.0	0.0
③資金繰り	-26.1	-13.0	-4.4
④採算(収益)	-52.2	-30.4	-30.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-17.4	-4.3	17.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-39.1	-30.5	-13.1

[化学・プラスチック]

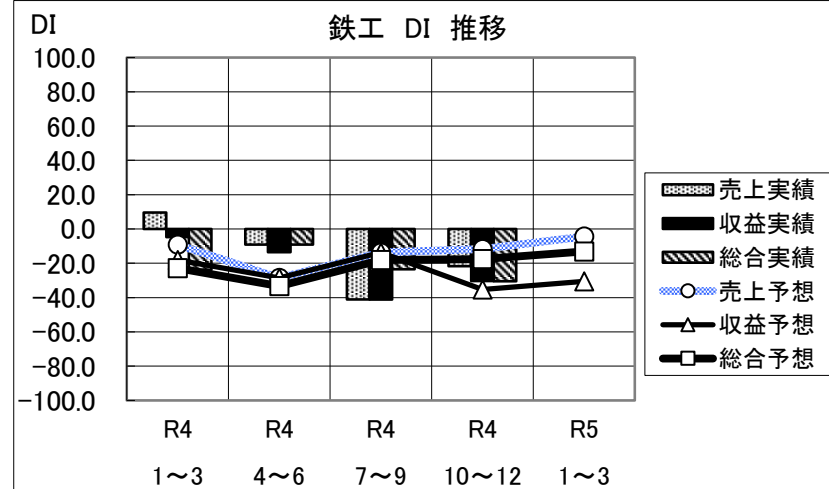
売上DI値は16.6、前期実績(7~9月期16.7)に比して-0.1ポイントの横バイ、収益DI値は0.0、前期実績(7~9月期16.6)に比して-16.6ポイントの下降、総合判断DI値は-33.3、前期実績(7~9月期-16.6)に比して-16.7ポイントの下降となった。<化学>中国のゼロコロナ政策の影響で全体的に動きが鈍く、顧客の稼働率も低下傾向であった。<プラスチック>海外需要の低迷もあり、国外取引は厳しい時期であった。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-16.6ポイントの下降、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は-33.3ポイントの下降となっている。<化学>ゼロコロナ政策は解除されたが、資源高や経済全体の低迷もありしばらくこの傾向は続くものとみられる。<プラスチック>原材料不足・インフレ傾向は和らぎつつあるが、今期同様の厳しい状況が続く。

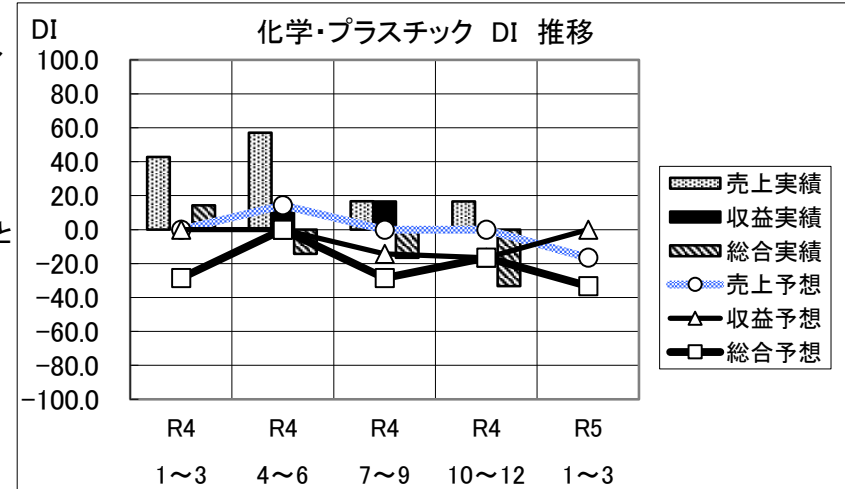
(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年10月~12月 に比べて	前期比 令和4年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和5年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-33.3	16.6	-16.6
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-33.3
③資金繰り	-16.7	-16.7	-16.7
④採算(収益)	0.0	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	16.7	16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-33.3	-33.3



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	9.6	-9.1	-41.1	-21.7	-4.4
収益	-4.8	-13.6	-41.2	-30.4	-30.5
総合	-23.8	-9.1	-23.5	-30.5	-13.1



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	42.8	57.1	16.7	16.6	-16.6
収益	0.0	14.3	16.6	0.0	0.0
総合	14.3	-14.3	-16.6	-33.3	-33.3

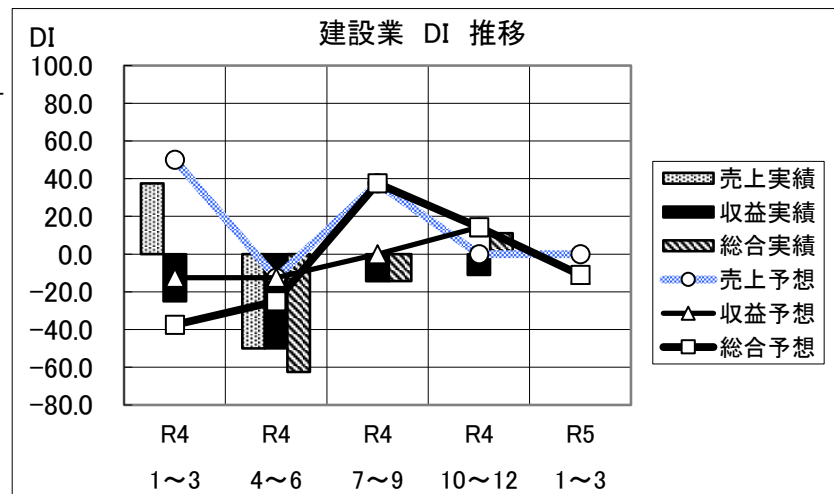
建設業

売上DI値は0.0、前期実績(7~9月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイ、収益DI値は-11.1、前期実績(7~9月期-14.3)に比して3.2ポイントの横バイ、総合判断DI値は11.1、前期実績(7~9月期-14.3)に比して25.4ポイントの上昇となった。県内の工事物件数は公共・民間とも順調に推移しており、人手不足等が課題となっている。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は-11.1ポイントの下降、総合判断DI値は-11.1ポイントの下降となっている。年度末の需要期にあり、引き続き順調に推移する見込み。

建設業		(DI 単位:%)		
	前年同期比 令和3年10月~12月 に比べて	前期比 令和4年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和5年1月~3月 の見通し	
①生産額・売上額	0.0	0.0	0.0	
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0	
③資金繰り	-11.1	-11.1	-11.1	
④採算(収益)	-11.1	-11.1	-11.1	
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-11.1	-11.1	11.1	
⑥貴社の業況(総合判断)	11.1	11.1	-11.1	



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	37.5	-50.0	0.0	0.0	0.0
収益	-25.0	-50.0	-14.3	-11.1	-11.1
総合	0.0	-62.5	-14.3	11.1	-11.1

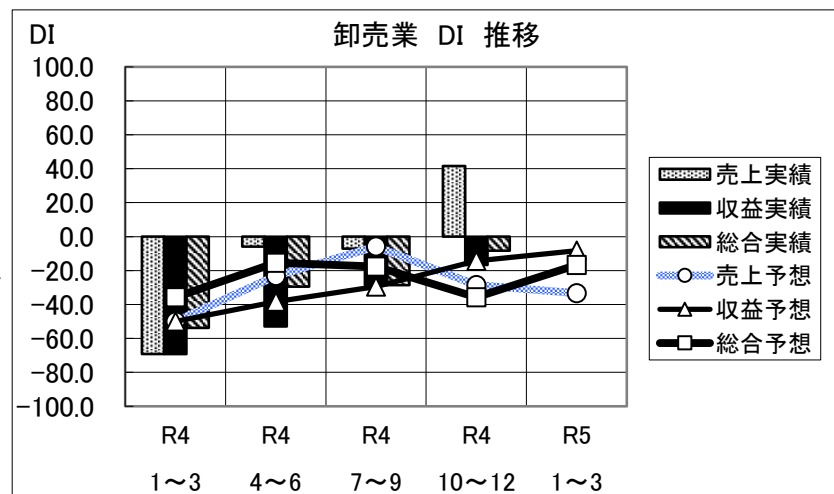
卸売業

売上DI値は41.6、前期実績(7~9月期-7.1)に比して48.7ポイントの上昇、収益DI値は-16.7、前期実績(7~9月期-28.6)に比して11.9ポイントの上昇、総合判断DI値は-8.3、前期実績(7~9月期-28.6)に比して20.3ポイントの上昇となった。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-33.3ポイントの下降、収益DI値は-8.3ポイントの下降、総合判断DI値は-16.7ポイントの下降となっている。

卸売業		(DI 単位:%)		
	前年同期比 令和3年10月~12月 に比べて	前期比 令和4年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和5年1月~3月 の見通し	
①生産額・売上額	-41.6	41.6	-33.3	
②製品・商品在庫	-50.0	-41.7	-41.7	
③資金繰り	-8.3	-16.7	-8.4	
④採算(収益)	-41.6	-16.7	-8.3	
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	0.0	0.0	
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-8.3	-16.7	



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-69.2	-5.9	-7.1	41.6	-33.3
収益	-69.2	-52.9	-28.6	-16.7	-8.3
総合	-53.8	-29.5	-28.6	-8.3	-16.7

【繊維卸】

売上DI値は36.3、前期実績(7~9月期-15.4)に比して51.7ポイントの上昇、収益DI値は-27.3、前期実績(7~9月期-38.5)に比して11.2ポイントの上昇、総合判断DI値は-18.2、前期実績(7~9月期-38.5)に比して20.3ポイントの上昇となった。<産業資材>車両用基布の10~12月の動きは未だ部品不足による生産調整が続く大きく需要低迷。他の資材は全体的に動きが鈍くなっており原材料高による消費の落ち込みが影響か。<インテリア>円安による原材料高で採算面が厳しく、前売りの状況が優れず数量が1割強程度のダウン。<アパレル>円安+原材料高に加え、燃料高騰によるコスト増で利益が残らない状況

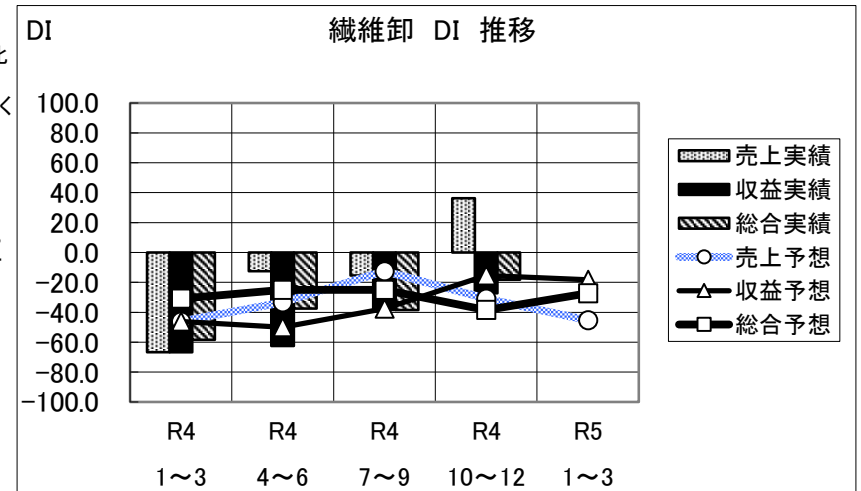
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-45.4ポイントの下降、収益DI値は-18.2ポイントの下降、総合判断DI値は-27.3ポイントの下降となっている。<産業資材>車両用基布は少しずつ回復の見込み。他の資材の荷動きは鈍く様子見が続く。<インテリア>数量ベースでは引き続き1割強程度の減少が続く見込み。<アパレル>行動制限の撤廃でイベント再開や観光・ショッピングの活性化で、生地的需求も増加。コロナ前の8割程度までの回復を期待。

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年10月~12月 に比べて	前期比 令和4年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和5年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-54.5	36.3	-45.4
②製品・商品在庫	-45.5	-36.4	-45.4
③資金繰り	-9.1	-18.2	-9.1
④採算(収益)	-54.5	-27.3	-18.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-18.2	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-63.6	-18.2	-27.3



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-66.7	-12.5	-15.4	36.3	-45.4
収益	-66.7	-62.5	-38.5	-27.3	-18.2
総合	-58.4	-37.5	-38.5	-18.2	-27.3

小売業

売上DI値は21.5、前期実績(7~9月期-14.3)に比して35.8ポイントの上昇、収益DI値は-14.3、前期実績(7~9月期-30.8)に比して16.5ポイントの上昇、総合判断DI値は-7.2、前期実績(7~9月期-23.1)に比して15.9ポイントの上昇となった。インフレの影響で消費意欲に力強さがないなか、年末の需要期にあり前期比で売上は上昇も、原材料やコストアップ分を十分に転嫁できず利幅は縮小した。

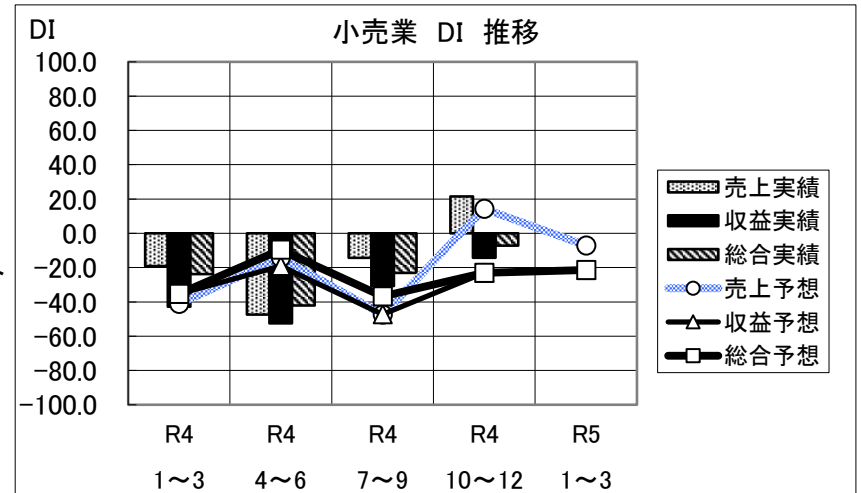
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-7.2ポイントの下降、収益DI値は-21.4ポイントの下降、総合判断DI値は-21.4ポイントの下降となっている。顕著な物価上昇で消費意欲が高まらず、またECの普及で消費行動も変化してきている。感染再拡大の影響も懸念材料。

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年10月~12月 に比べて	前期比 令和4年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和5年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-21.4	21.5	-7.2
②製品・商品在庫	0.0	-7.2	7.2
③資金繰り	-21.4	-7.1	-14.3
④採算(収益)	-28.6	-14.3	-21.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-21.5	-14.3	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-21.4	-7.2	-21.4



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-19.1	-47.4	-14.3	21.5	-7.2
収益	-42.8	-52.6	-30.8	-14.3	-21.4
総合	-23.8	-42.1	-23.1	-7.2	-21.4

[飲食]

売上DI値は100.0、前期実績(7~9月期50.0)に比して50.0ポイントの上昇、収益DI値は-100.0、前期実績(7~9月期-100.0)に比して0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0、前期実績(7~9月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイとなった。個人客の動きはコロナ前の水準に近づきつつあるが、第8波の影響もあってか会社などの団体利用は以前の水準には届かず。また、食材や電気ガスの値上げが利幅を圧迫している。

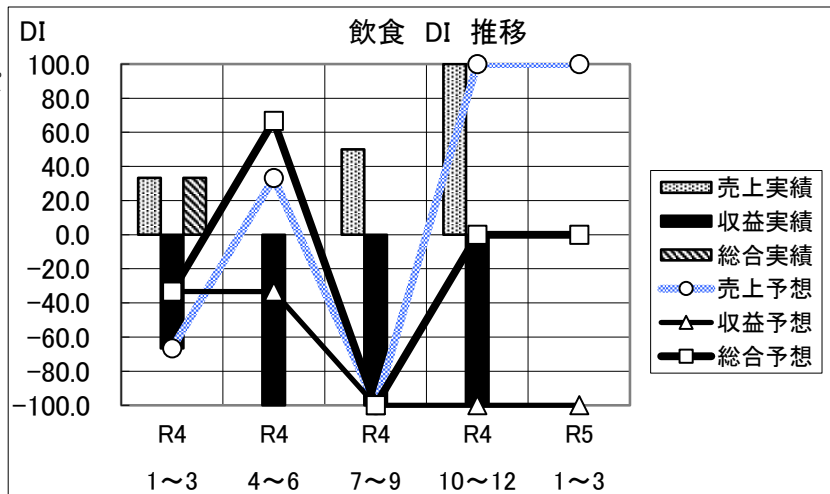
向こう3カ月の見直し

売上DI値は100.0ポイントの上昇、収益DI値は-100.0ポイントの下降、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。春頃を目途にした新型コロナの5類引き下げも報じられ、リベンジ消費を期待したいが、物価高で節約意識が高まなか、コストアップをどのように吸収するか、各店舗の魅力づくりが重要。

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年10月~12月 に比べて	前期比 令和4年7月~9月 に比べて	来期見直し 令和5年1月~3月 の見直し
①生産額・売上額	100.0	100.0	100.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-100.0	-100.0	-100.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見直し
売上	33.3	0.0	50.0	100.0	100.0
収益	-66.7	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
総合	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

[石油等その他小売]

売上DI値は28.6、前期実績(7~9月期-33.3)に比して61.9ポイントの上昇、収益DI値は-28.6、前期実績(7~9月期-33.3)に比して4.7ポイントの横バイ、総合判断DI値は-14.3、前期実績(7~9月期-33.3)に比して19.0ポイントの上昇となった。欧米各国の利上げ、中国ゼロコロナ政策等による需要低迷もあり供給超過が続いた結果、WTI期近物は徐々に値を下げ12月は70ドル台で推移。

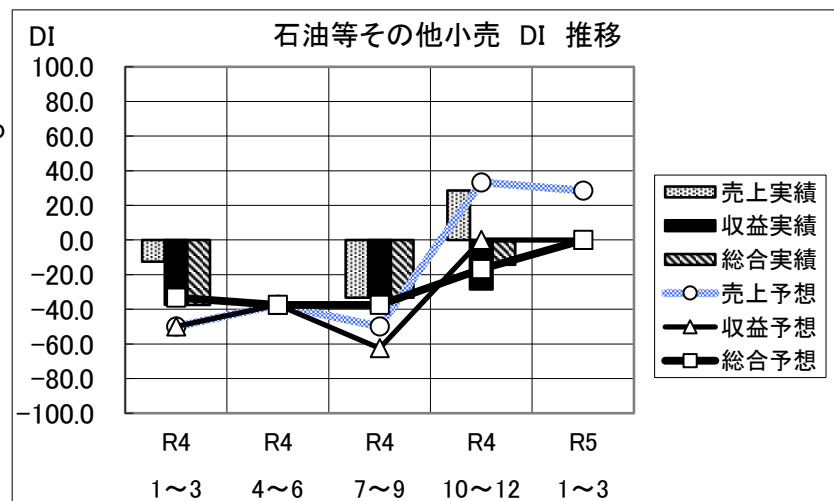
向こう3カ月の見直し

売上DI値は28.6ポイントの上昇、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。

(石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年10月~12月 に比べて	前期比 令和4年7月~9月 に比べて	来期見直し 令和5年1月~3月 の見直し
①生産額・売上額	-14.3	28.6	28.6
②製品・商品在庫	14.3	14.3	14.3
③資金繰り	-28.6	-14.3	0.0
④採算(収益)	-42.9	-28.6	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-28.6	-14.3	0.0



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見直し
売上	-12.5	0.0	-33.3	28.6	28.6
収益	-37.5	0.0	-33.3	-28.6	0.0
総合	-37.5	0.0	-33.3	-14.3	0.0

サービス業

売上DI値は40.0、前期実績(7~9月期12.5)に比して27.5ポイントの上昇、収益DI値は30.0、前期実績(7~9月期12.5)に比して17.5ポイントの上昇、総合判断DI値は40.0、前期実績(7~9月期37.5)に比して2.5ポイントの横バイとなった。

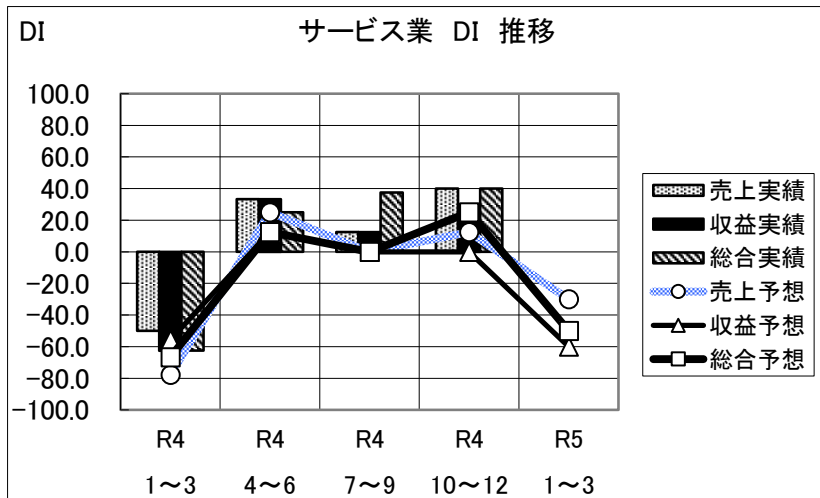
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-30.0ポイントの下降、収益DI値は-60.0ポイントの下降、総合判断DI値は-50.0ポイントの下降となっている。

サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和3年10月~12月 に比べて	前期比 令和4年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和5年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	20.0	40.0	-30.0
②製品・商品在庫	0.0	10.0	-20.0
③資金繰り	20.0	20.0	-40.0
④採算(収益)	-10.0	30.0	-60.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	20.0	10.0	-30.0
⑥貴社の業況(総合判断)	10.0	40.0	-50.0



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-50.0	33.3	12.5	40.0	-30.0
収益	-62.5	33.3	12.5	30.0	-60.0
総合	-62.5	25.0	37.5	40.0	-50.0

【旅館】

売上DI値は66.7、前期実績(7~9月期100.0)に比して-33.3ポイントの下降、収益DI値は66.7、前期実績(7~9月期50.0)に比して16.7ポイントの上昇、総合判断DI値は66.7、前期実績(7~9月期100.0)に比して-33.3ポイントの下降となった。10~12月期の宿泊者数は、2021年比126.2%、2019年比57.5%。全国旅行支援等の後押しも伸び悩んだ。昨年の県民割は県内旅行限定で波及効果があったが今回は県外への流出があった。第8波の影響は企業・団体旅行の多い愛知では忘年会などに影響があった。ジブリパークの波及効果も入場者制限の現状では蒲郡への影響は限定的。

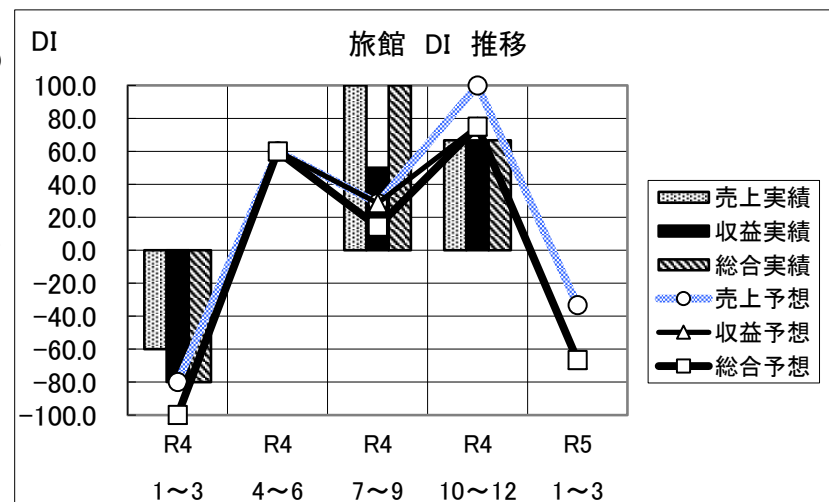
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-33.3ポイントの下降、収益DI値は-66.7ポイントの下降、総合判断DI値は-66.7ポイントの下降となっている。1月以降の旅行支援第2弾は支援額減少も個人旅行へは好影響。ただし団体客はまだ低調。大河ドラマで岡崎市に大河ドラマ館開業、広域連携で当市の宿泊につなげたい。インバウンド再開ではジブリパークを官民連携で生かしたい。またコロナ融資の返済開始で資金繰り悪化を懸念。

(旅館)

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和3年10月~12月 に比べて	前期比 令和4年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和5年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	66.7	66.7	-33.3
②製品・商品在庫	0.0	16.7	-33.3
③資金繰り	50.0	50.0	-50.0
④採算(収益)	33.3	66.7	-66.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	50.0	33.3	-33.3
⑥貴社の業況(総合判断)	50.0	66.7	-66.7



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-60.0	0.0	100.0	66.7	-33.3
収益	-80.0	0.0	50.0	66.7	-66.7
総合	-80.0	0.0	100.0	66.7	-66.7

運輸通信業

売上DI値は-12.5、前期実績(7~9月期-14.3)に比して1.8ポイントの横バイ、収益DI値は-25.0、前期実績(7~9月期0.0)に比して-25.0ポイントの下降、総合判断DI値は-25.0、前期実績(7~9月期0.0)に比して-25.0ポイントの下降となった。

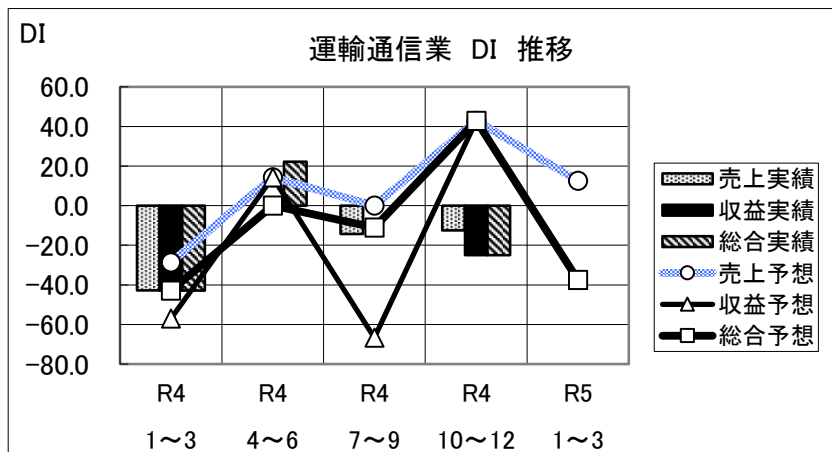
向こう3カ月の見通し

売上DI値は12.5ポイントの上昇、収益DI値は-37.5ポイントの下降、総合判断DI値は-37.5ポイントの下降となっている。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年10月~12月 に比べて	前期比 令和4年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和5年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	37.5	-12.5	12.5
②製品・商品在庫	-42.9	-28.6	-28.6
③資金繰り	0.0	-12.5	-12.5
④採算(収益)	0.0	-25.0	-37.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-25.0	12.5	12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-25.0	-37.5



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-42.8	0.0	-14.3	-12.5	12.5
収益	-42.9	0.0	0.0	-25.0	-37.5
総合	-42.9	22.2	0.0	-25.0	-37.5

[旅客・貨物輸送・水運]

売上DI値は0.0、前期実績(7~9月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイ、収益DI値は-28.6、前期実績(7~9月期0.0)に比して-28.6ポイントの下降、総合判断DI値は-28.6、前期実績(7~9月期0.0)に比して-28.6ポイントの下降となった。業界ごとの好不調が明確で全体的な力強さに欠ける印象。売上自体は確保できても燃油価格や人件費の増加などコスト増を訴える声が見られた。

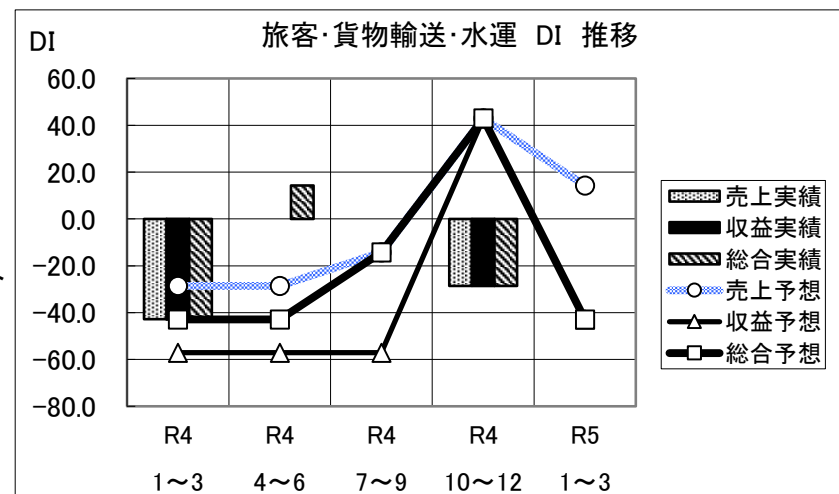
向こう3カ月の見通し

売上DI値は14.3ポイントの上昇、収益DI値は-42.9ポイントの下降、総合判断DI値は-42.9ポイントの下降となっている。引き続き力強さにかける状況が続く見込みも、燃料・資材・人件費などコストアップに備えて、価格転嫁に限らず売上自体を拡大していく必要がある。

(旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年10月~12月 に比べて	前期比 令和4年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和5年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	28.6	0.0	14.3
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-33.3
③資金繰り	-14.3	-14.3	-14.3
④採算(収益)	-14.3	-28.6	-42.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	14.3	14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.3	-28.6	-42.9

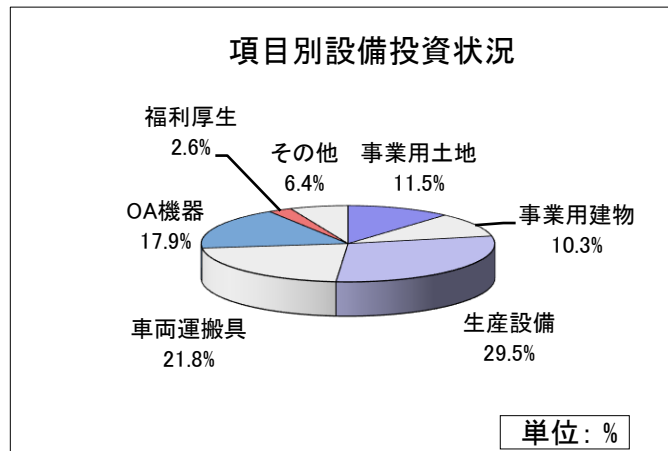
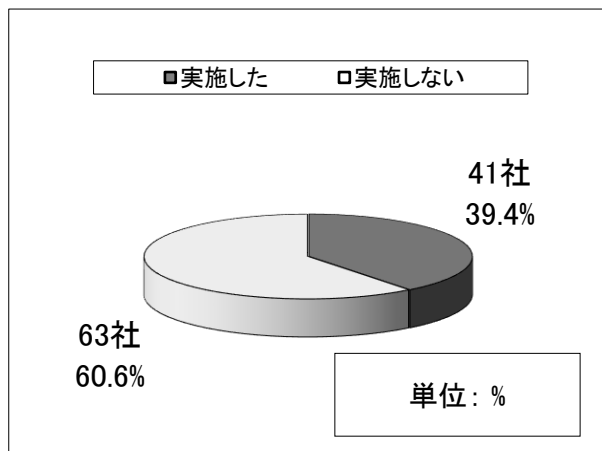


<業況判断DIの推移>

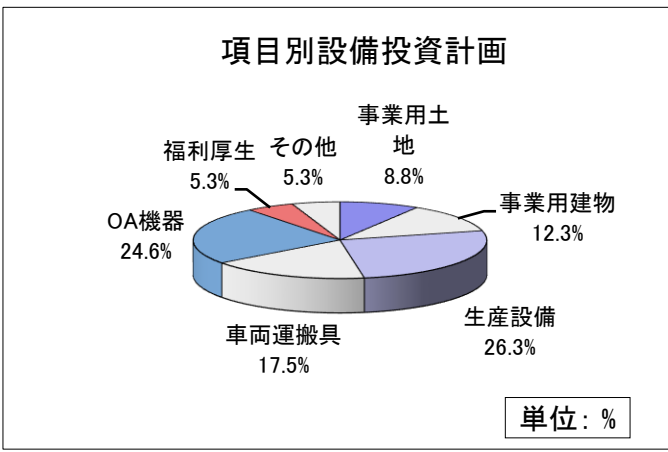
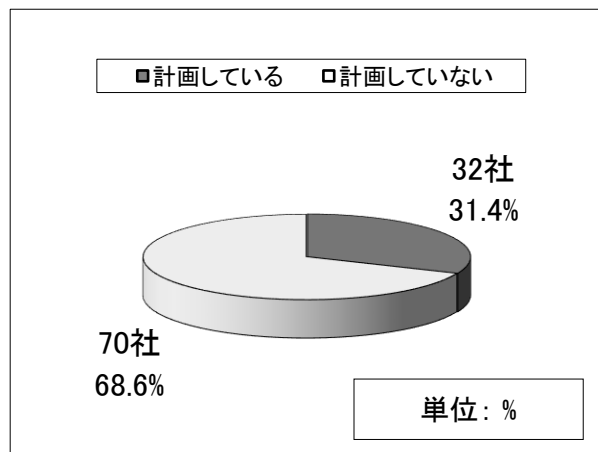
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-42.8	0.0	0.0	0.0	14.3
収益	-42.9	0.0	0.0	-28.6	-42.9
総合	-42.9	14.3	0.0	-28.6	-42.9

7. 設備投資動向

＜今期 R4.10～12＞ 設備投資実施状況 全業種＞



＜来期 R5.1～3＞ 設備投資実施状況 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今期	来期見通し
事業用土地	9	5
事業用建物	8	7
生産設備	23	15
車両運搬具	17	10
OA機器	14	14
福利厚生	2	3
その他	5	3
計	78	57

(単位:件)

◎今期・来期 設備投資実施、計画動向

		全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期	R4.10～12	41	25	1	1	4	4	6
2. 来期	R5.1～3	32	19	3	1	3	3	3

(単位:事業所)

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 104 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	44 42.3%
2	利幅の縮小	42 40.4%
3	原材料(燃料)高	40 38.5%
4	人手不足	27 26.0%
5	人件費の増加	18 17.3%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 51 社	原材料(燃料)高 22 社 43.1%	売上の停滞・減少 21 社 41.2%	利幅の縮小 19 社 37.3%
建設業 9 社	利幅の縮小 5 社 55.6%	原材料(燃料)高 4 社 44.4%	人件費の増加 3 社 33.3%
卸売業 12 社	売上の停滞・減少 6 社 50.0%	原材料(燃料)高 5 社 41.7%	人手不足 3 社 25.0%
小売業 14 社	売上の停滞・減少 7 社 50.0%	利幅の縮小 7 社 50.0%	人件費の増加 5 社 35.7%
サービス業 10 社	売上の停滞・減少 6 社 60.0%	利幅の縮小 6 社 60.0%	人手不足 4 社 40.0%
運輸通信業 8 社	人手不足 4 社 50.0%	利幅の縮小 3 社 37.5%	原材料(燃料)高 3 社 37.5%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No. 97

番号	調査項目	単位	R05.02報告	基準日	R04.11報告	基準日	R04.08報告	基準日	R04.05報告	基準日	出典
1	人口	人	78,666	R5.1.1	78,875	R4.10.1	79,024	R4.7.1	79,085	R4.4.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		3,324		3,313		3,295		3,189		
2	世帯数	世帯	33,333	R5.1.1	33,363	R4.10.1	33,374	R4.7.1	31,752	R4.4.1	"
	(うち外国人)		1,593		1,579		1,572				
3	15才～65才生産人口	人	46,020	R5.1.1	46,087	R4.7.1	46,190	R4.7.1	46,199	R4.4.1	"
	(うち外国人)		2,705		2,678		2,592		2,601		
4	全国完全失業率	%	2.5	R4.11月	2.6	R4.9月	2.6	R4.5月	2.6	R4.3月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%		R4.10～12月	2.0	R4.7～9月	2.4	R4.4～6月	1.9	R4.1～3月	愛知県 「あいちの就業状況」
5	全国有効求人倍率	倍	1.35	R4.12月	1.34	R4.9月	1.27	R4.6月	1.22	R4.3月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.85	R4.12月	0.83	R4.9月	0.80	R4.5月	0.90	R4.3月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶を除く前年同月比)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比(速報)	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	528.8	2.9	1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	533.4	0.0	▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	526.0	▲ 0.9	▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	521.9	0.7	▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	528.4	2.5	▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	519.2		▲ 1.7	-
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	514.9	0.9	0.1	-
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	517.7	2.0	▲ 1.0	588.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	521.3	1.7	0.4	582.1
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	525.6	1.0	▲ 0.4	586.2
2006年度	275	4.1	1.06	5.0	1,285,246	529.0	1.4	▲ 2.2	561.9
2007年度	257	3.9	1.04	2.3	1,035,598	530.9	1.2	0.9	532.0
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 16.6	1,039,214	509.5	▲ 3.4	▲ 1.9	470.1
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 15.4	775,277	492.0	▲ 2.2	▲ 0.2	488.0
2010年度	334	5.1	0.52	19.4	819,020	499.4	3.3	0.3	460.1
2011年度	284	4.5	0.65	4.2	841,246	494.0	0.5	▲ 2.2	475.3
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 7.1	893,002	494.4	0.8	1.1	521.0
2013年度	265	4.0	0.93	10.6	987,254	507.3	2.6	1.0	569.2
2014年度	236	3.6	1.09	8.0	880,470	518.2	▲ 0.4	▲ 2.9	529.7
2015年度	222	3.4	1.23	▲ 1.2	920,537	532.9	1.3	▲ 2.3	493.8
2016年1月	215	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	217	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	135.8	0.7	1.2	27.5
3月	214	3.2	1.30	9.8	75,744			▲ 5.3	40.4
4月	214	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2
5月	212	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	134.2	▲ 0.2	▲ 1.1	22.3
6月	208	3.2	1.37	1.3	85,953			▲ 2.2	28.7
7月	201	3.1	1.37	▲ 4.2	85,208			▲ 0.5	28.1
8月	208	3.1	1.37	0.2	82,242	132.6	0.2	▲ 4.6	22.3
9月	202	3.0	1.38	▲ 4.5	85,622			▲ 2.1	31.7
10月	198	3.0	1.40	▲ 10.9	87,707			▲ 0.4	24.2
11月	200	3.1	1.41	24.5	85,051	141.6	0.2	▲ 1.5	27.3
12月	202	3.1	1.43	17.3	78,406			▲ 0.3	26.4
2017年1月	202	3.0	1.43	10.7	76,491			▲ 1.2	25.8
(平成29年)2月	192	2.8	1.43	▲ 0.7	70,912	136.2	0.8	▲ 3.8	31.2
3月	187	2.8	1.45	▲ 12.5	75,887			▲ 1.3	46.0
4月	187	2.8	1.48	▲ 0.2	83,979			▲ 1.4	22.4
5月	206	3.1	1.49	8.6	78,481	136.0	0.3	▲ 0.1	23.7
6月	190	2.8	1.51	3.4	87,456			2.3	31.5
7月	189	2.8	1.52	10.5	83,234			▲ 0.2	27.8
8月	185	2.8	1.52	19.7	80,562	135.7	0.8	0.6	23.3
9月	188	2.8	1.52	7.6	83,128			▲ 0.3	31.8
10月	184	2.8	1.55	12.3	83,057			0.0	23.1
11月	180	2.7	1.56	5.8	84,703	144.4	0.1	1.7	25.8
12月	181	2.8	1.59	▲ 6.6	76,751			▲ 0.1	26.2
2018年1月	164	2.4	1.59	8.7	66,358			2.0	24.3
(平成30年)2月	170	2.5	1.58	7.8	69,071	138.9	0.1	0.1	29.6
3月	172	2.5	1.59	▲ 2.8	69,616			▲ 0.2	43.8
4月	172	2.5	1.59	11.4	84,226			▲ 1.3	22.5
5月	155	2.2	1.60	15.3	79,539	137.9	0.3	▲ 3.9	23.6
6月	167	2.4	1.62	▲ 4.2	81,275			▲ 1.2	29.2
7月	170	2.4	1.63	11.3	82,615			0.1	28.1
8月	166	2.4	1.63	4.9	81,860	135.2	▲ 0.5	2.8	23.3
9月	161	2.3	1.64	▲ 5.4	81,903			▲ 1.6	30.8
10月	166	2.4	1.62	6.1	83,330			▲ 0.3	26.1
11月	169	2.5	1.63	4.0	84,213	144.4	▲ 0.1	▲ 0.6	27.9
12月	164	2.4	1.63	▲ 4.0	78,364			0.1	25.0
2019年1月	172	2.5	1.63	▲ 8.5	67,087			2.0	24.9
(平成31年)2月	160	2.3	1.63	▲ 3.7	71,966	138.8	0.2	1.7	30.0
3月	174	2.5	1.62	▲ 0.2	76,558			2.1	41.7
4月	168	2.4	1.63	▲ 6.0	79,389			1.3	23.0
(令和元年)5月	162	2.4	1.62	▲ 10.1	72,581	138.4	0.3	4.0	24.7
6月	161	2.3	1.61	0.9	81,541			2.7	29.0
7月	154	2.2	1.59	▲ 10.6	79,232			0.8	30.0
8月	154	2.2	1.59	0.9	76,034	136.8	0.2	1.0	24.2
9月	167	2.4	1.58	▲ 6.4	77,915			9.5	34.7
10月	166	2.2	1.58	▲ 8.8	77,123			▲ 5.1	19.2
11月	151	2.2	1.57	▲ 15.2	73,523	143.7	▲ 2.7	▲ 2.0	23.8
12月	145	2.2	1.57	▲ 7.9	72,174			▲ 4.8	22.6
2020年1月	159	2.3	1.49	▲ 0.8	60,341			▲ 3.9	22.1
(令和2年)2月	159	2.4	1.45	▲ 7.7	63,105	137.7	0.4	▲ 0.3	26.8
3月	176	2.5	1.39	0.1	70,729			▲ 6.0	37.4
4月	189	2.6	1.32	▲ 10.1	69,162			▲ 11.1	17.2
5月	198	2.9	1.20	▲ 20.9	63,839	126.6	▲ 8.0	▲ 16.2	14.7
6月	195	2.8	1.11	▲ 22.4	71,101			▲ 1.2	21.4
7月	197	2.9	1.08	▲ 17.9	70,244			▲ 7.6	23.9
8月	206	3.0	1.04	▲ 17.0	69,101	131.3	5.6	▲ 6.9	19.7
9月	210	3.0	1.03	▲ 1.5	70,186			▲ 10.2	29.3
10月	215	3.1	1.04	▲ 1.2	70,685			1.9	25.3
11月	195	2.9	1.06	1.3	70,798	143.3	1.9	1.1	25.3
12月	194	2.9	1.06	18.7	65,643			▲ 0.6	24.3
2021年1月	197	2.9	1.10	▲ 1.0	58,448			▲ 6.1	23.6
(令和3年)2月	194	2.9	1.09	39.8	60,764	136.2	▲ 0.1	▲ 6.8	26.2
3月	188	2.6	1.10	▲ 5.4	71,787			6.2	38.4
4月	209	2.8	1.09	14.7	74,521			13.0	21.0
5月	211	3.0	1.09	41.1	70,178	135.7	0.3	11.6	19.3
6月	206	2.9	1.13	35.5	76,312			▲ 5.1	23.4
7月	191	2.8	1.15	43.9	77,182			0.7	23.4
8月	193	2.8	1.14	20.6	74,303	131.2	▲ 0.5	▲ 3.0	20.6
9月	192	2.8	1.16	12.6	73,178			▲ 1.9	20.5
10月	183	2.7	1.15	28.3	78,004			▲ 0.6	17.6
11月	182	2.8	1.15	24.7	73,414	144.0	1.2	▲ 1.3	21.9
12月	171	2.7	1.16	17.6	68,393			▲ 0.2	21.8
2022年1月	185	2.8	1.21	20.0	59,890			6.9	20.7
(令和4年)2月	180	2.7	1.22	▲ 16.8	64,614	137.4	▲ 0.5	1.1	21.3
3月	180	2.6	1.22	14.3	76,120			▲ 2.3	32.7
4月	188	2.5	1.23	25.4	76,294			▲ 1.7	17.8
5月	191	2.6	1.27	13.2	67,193	137.6	1.1	▲ 0.5	16.1
6月	186	2.6	1.27	15.7	74,596			3.5	19.7
7月	176	2.6	1.29	4.8	72,981			3.4	21.4
8月	177	2.5	1.32	6.5	77,712	135.0	▲ 0.2	5.1	17.9
9月	176	2.6	1.34	7.9	73,920			2.3	24.2
10月	183	2.6	1.35	▲ 5.7	76,590			1.2	21.1
11月	182	2.5	1.35	▲ 4.6	72,372			▲ 1.2	22.1
12月	171		1.35		67,249				20.9

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)